令和５年度　韮崎小学校

校内研究の概要

１　研究主題・副主題について

研究主題　　「自ら考え学ぶ力を高める指導の工夫」

＜主題設定の理由＞

☆「自ら考え学ぶ力」を考える上で…

「自ら考え学ぶ力」を考える上で重要な言葉が「自己調整学習」である。自己調整学習とは「動機づけ・学習方略・メタ認知の3要素において，自らの学習過程に能動的に関与して進められる学習」と表現できる。

「動機づけ」とは，学習を進めるにあたってのエネルギーとなる心の働きを指す。具体的には，「自分はできる」という自己効力感や「算数の成績を上げたい」という意欲などを指す。

「学習方略」とは，効果的な学習をするための方法や工夫のことである。例えば，単にドリルを繰り返したり，丸暗記したりするよりも，絵や図など視覚情報を使ったり，似たような漢字をカテゴリー分けしたりした方が深い学びを得やすくなるといったことである。

「メタ認知」とは，自分自身を高い視点から見つめ直し，自らの思考や認知を適切にコントロールする働きのこと。「自分は何を理解していて，何が苦手なのか」を正確に捉え，学ぶべき箇所を明確にすることである。

ここでは，「自ら考え学ぶ力」を，**「児童自らが意欲をもって，自己の学びの変容に気づき，自分自身をよりよくしようと学んでいく力」**と考える。

（1）社会的背景から

平成29年の改訂で，学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の3つの柱で整理された。3つの柱とは，①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力，人間性である。新学習指導要領には3つの柱からなる能力を総合的に育んでいくことを目指すことが記された。3つの柱はそれぞれを補完し合うと考えられる。①知識・及び技能を活用して②思考・判断・表現しながら③学びに向かう力やその人間性の醸成が求められているのである。

昨今のデジタル技術の進歩とクリエイティブな仕事の需要は顕著であり，これからの時代を生きていく人間に求められるものが真剣に考えられるようになって久しい。インターネットや人工知能の発達により，機械化・自動化できる仕事が増えていくことが予想され，あるいは実現され，今後はより一層，コンピューターにはできない五感を使った情報処理能力や表現力，状況に合わせた判断力が求められるので

ある。2021年度から大学入試センター試験が「大学入学共通テスト」に変わり，これまでの知識・技能だけでなく，思考力・判断力・表現力が評価されることになった社会的変化も目覚ましい。

いまを生きる子どもたちは，先述の社会的背景から求められている力が変わってきている。変化の激しいこれからの時代では，生涯に渡って自律的に学ぶ力がますます重要になる。現代の子どもたちに求められているのは，まさに「自ら考え学ぶ力」であると言えるだろう。

(2) 学校教育目標の具現化から

「さくらとにおう よい子ども」

〇よく学ぶ子ども　　〇心かがやく子ども

〇正しく強い子ども　　〇ふるさとを愛する子ども

「さくらとにおう よい子ども」とは本校校歌の歌詞の一節であり，作詞をした本校卒業生で東京大学の国文学者であった小池藤五郎先生の「美しい花のように生き生きとした魅力が内面からあふれ出ている素晴らしい子ども」になろうという思いを推察して設定したものである。また，それを具体化する4つの目標は，知・徳・体の調和のとれた心身ともに健やかな子どもの育成を目指すものである。

なかでも，「よく学ぶ子ども」とは，自ら考え学ぶ児童の姿であり，それを育むことを目指すために研究主題の「自ら考え学ぶ力を高める指導の工夫」の設定を考えた。子どもたちが「自ら考え学ぶ力を高める」ためには，子どもたちの表現が許される学級づくりが肝要である。学級づくりを支えるのは授業であると考えれば，授業における意欲や関心を育てていくことは前提となる。

子どもが楽しいと思える，子どもの疑問が大切にされる，間違いも含めた様々な考えが表現され，生かされるために，児童が自ら考え学び，能動的に授業に参加できる授業づくりを研究することによって，「自ら考え学ぶ力を高める」ことを図り，学校教育目標「さくらとにおう よい子ども」に迫ろうと考えた。

(3) 研究の経過から

本校では，英語教育改善プラン推進事業の指定を受けていた前年度に，外国語に関する研究を進めてきた。力を入れた内容としては，思考力，判断力，表現力の活用・育成に向けた『言語活動の工夫・充実』である。特に，「話すこと（やりとり・発表）」について，重点的に研究を進めてきた。具体的には，「対話力の向上」「目的や場面，状況の設定」「効果的な ICT の活用」「アンケートによる児童把握」「掲示の工夫」である。また，「パフォーマンス評価」「振り返りシート」を活用しながら，指導と評価の一体化についても実践を積み上げてきた。実践を通すことで，思考力，判断力，表現力を高めるための授業づくりを行うための指導について研究を深めることができた。

今年度は，児童のあらゆる学びの基礎は，国語科の活動にあると考え，教科を国語に絞って研究を進めていくことにする。「自ら考え学ぶ力を高める」のために，これまで取り組んできた「話すこと（やりとり）」に関わるの伝え合いや「書くこと」での推敲や共有などの学習場面を取り入れた学びを深め合える授

業づくりの在り方や，指導計画の作成などを研究していこうと考えている。「話すこと・聞くこと」や「書くこと」などの領域も包括的に考える中で，児童が得た知識から考えたことなどを伝え合い，聞いて考えたことも含めて交流することや記述した文章を推敲させて検討し合い共有することなどを通して，「自ら考え学ぶ力を高める」ことを目指したい。

以上（1）～（3）の3点から研究主題を設定した。

2　研究副主題について

研究副主題　～国語科における伝え合い・深め合える授業を目指して～

＜副主題設定の理由＞

（1）児童の実態から

〇自分の思いや感情を表出させることが苦手な児童が比較的多い傾向にある。

〇授業中の発言の様子などを見ると，発言が特定の児童に偏ることがある。

〇話型に頼りきりになり，自分で言葉を考えて発言することが苦手な児童が多い。

〇文章表現が乏しく，言葉足らずな記述になっている児童が多い。

→言葉による表現に関わる部分に課題があることが分かっている。

（2）国語科であることについて

児童の学びは全て言語を介して行われることから，学習の基本となる国語科の研究に絞る。

（3）「伝え合い・深め合える授業」について

本校では，これまでも学習指導要領において明示されてきた「主体的・対話的で深い学び」の実現を目的として授業改善に励んできた。今年度も継続して深い学びの実現に向けて研究をしていく。

主体的・対話的で深い学び（小学校学習指導要領解説　総則編　P77一部抜粋）

「主体的な学び」…

学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる。

「対話的な学び」…

子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める。

「深い学び」　…

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

【国語科での深い学びの実現に向けた授業改善について】

- 深めるための発問や友だちからの新しい視点の投入によって児童の認識をゆさぶり，今までにない考えを形成できるよう単位時間を仕組むようにする。
- 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」では，記録データや以前に書いた物等と比較することで自己の変容を自覚させる。
- 「読むこと」では，課題を追究できたのか，初めの読みと友だちと追究した後の読みとの変容はあるかを確認する。
- 習得したことに何度も取り組み，身に付けた知識・技能が生きて働くものになるように単元や言語活動を設定する。
- 学びの変容を実感する自己評価や，仲間のよさを見付ける相互評価によって学びの実感を得られるようにする。

(4)「自ら考え学ぶ力を高める指導の工夫」・「自己調整学習」との関連について

本年度の研究では，「自ら考え学ぶ力を高める指導の工夫」として自己調整学習の概念を全体で共有し，中でも「メタ認知」（学習を進めつつ，その様子を俯瞰させて，「自分はこういうところでよく間違えるので，これを集中的に学ぼう」という意識（＝メタ認知）を持たせ，より効率的な学びとする）部分に焦点を当てて日々の指導で何が工夫できるかという点からも研究を深めていく。

以上（1）～（4）の4点から研究副主題を設定した。

学校の実態
・表現が苦手な児童
・学習意欲が低い

→

自己表現力を高める
→難しい・範囲が狭い

→

自ら考え学ぶ力　を高める

↓

研究主題　「自ら考え学ぶ力を高める指導の工夫」　に決定

↓

「自ら考え学ぶ力」の定義づけ
自己調整学習との関連（動機づけ・学習方略・メタ認知）

↓

「児童自らが意欲をもって，自己の学びの変容に気づき，自分自身をよりよくしようと学んでいく力

①児童自らが意欲をもって
②自己の学びの変容に気づく
③自分自身をよりよくしようと学んでいく

これらの力を高める指導の工夫を考えていく

今年度は，昨年度末の意向も含めて
国語科における伝え合い・深め合える授業を目指すことによって自ら考え学ぶ力を高めることをねらう

3　研究目標

国語科において，伝え合い・深め合う学習の中で多様な意見を交流し表現することを通して，自ら考え学ぶ力を高められることを明らかにする。

4　研究仮説

国語科において，伝え合い・深め合う学習の中で多様な意見を交流し表現することによって，自ら考え学ぶ力を高められるであろう。

5　研究方法

●国語科

〇理論研究

①全国学力・学習状況調査について

ⅰ　全国学力・学習状況調査とは何か

ⅱ　国語の問いの傾向と求められている力について

ⅲ　調査から分かる児童の実態について

②自ら考え学ぶ力について

ⅰ　自己調整学習と関連について

ⅱ　児童の学習過程におけるメタ認知について

③国語科における伝え合い・深め合える授業について

ⅰ　小学校学習指導要領解説国語編から

ⅱ　国語科教科書の各領域の教材一覧について

ⅲ　ICT の効果的な活用について

〇授業研究

①伝え合い・深め合える授業づくりについて

ⅰ　指導の展開と支援等の工夫を検討し，授業実践を行う

ⅱ　低・中・高ブロックで授業を考え実践し，授業観察をして考察を報告・共有する

ⅲ　例年の研究授業の形はとらないが，可能な限り授業を見合う

②国語科の実態把握・高めたい力の確認

ⅰ　Ⅰ学期中に児童の実態をみとる

ⅱ　領域は一つに絞らない

〇一人一実践

①主題・副主題に沿った実践の共有
②授業を持たない場合は他教科との関連に関わって実践報告をまとめる

〇検証方法
①学習過程，指導方法等についての授業観察から検証
②児童の変容をみとりながら検証
③普段の授業に生かせること

●カリキュラム・マネジメント

〇学習会他
①カリキュラム・マネジメントとは
②総合的な学習の時間の年間計画について
③国語科と総合的な学習の時間や社会科などとの関連
④教科横断的な目標の位置づけ
⑤教育課程の見直し

●特別支援教育

〇特別支援教育についての学習会